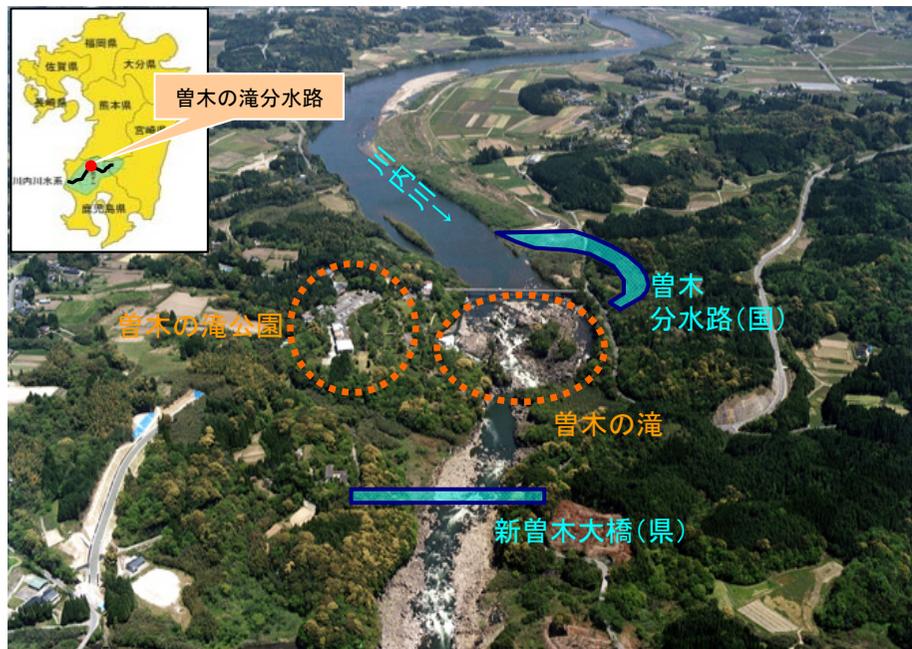
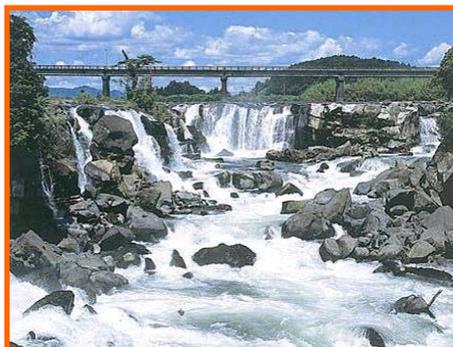


# そぎ 曾木の滝分水路について

- 曾木の滝分水路は、平成18年7月洪水において甚大な被害を受けた川内川上流域の洪水被害を減らすため、景勝地「曾木の滝」の左岸側に整備された分水路です。
- 近くにある「曾木の滝」やその周辺の美しい景観と調和し、地域振興にも活用できる観光資源となるように整備が行われました



## 【景勝地曾木の滝】



平常時



出水時

曾木分水路の整備では、あえて河道を蛇行させ、法面は曾木の滝公園からの展望を考慮し、高木を植樹。もともと川があったかのような景観を創出しました。

## 【周辺の地域資源】

- ・曾木の滝は、高さ12m、滝の幅は210m、「東洋のナイアガラ」と称される景勝地です。
- ・曾木の滝公園は展望所などの公園整備がなされており、年間約30万人の観光客で賑わっています。

# そぎ 曾木の滝分水路の概要

## ■曾木の滝分水路

### 【概要】

川内川流域では、平成18年7月の梅雨前線により、記録的な豪雨となり、川内川全域で大規模な被害が発生しました。こうした洪水被害を減らすため、延長約400m、底幅約30mの水路が曾木の滝付近に整備されました。これが「曾木の滝分水路」です。大雨で川の水位が上がると、この水路に水が流れこみ、洪水があふれる前に速やかに海へ流すための施設です。

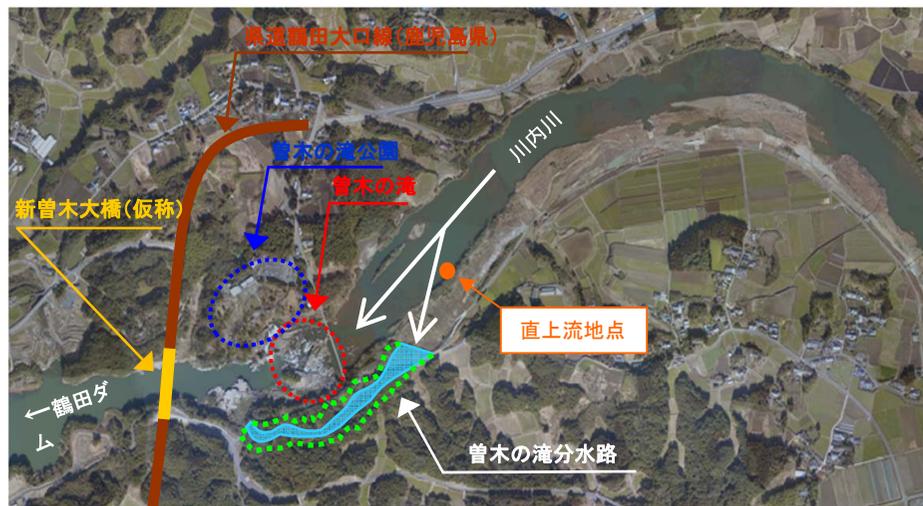
【工事期間】 平成18年度～平成23年3月完成

### 【諸元】

		分派量	
土砂掘削	約 9万m <sup>3</sup>	※H18.7	約3,900m <sup>3</sup> /s
岩掘削	約16万m <sup>3</sup>	本 川	: 約 3,700m <sup>3</sup> /s
合 計	約25万m <sup>3</sup>	分水路	: 約 200m <sup>3</sup> /s

### 【事業効果】

「曾木分水路」により鶴田ダム上流地区の水位低下を図り、平成18年7月洪水の外水氾濫による家屋の浸水被害を解消しました。  
(※曾木の滝分水直上流で約30cmの水位低下)



## 着工前



## 現在

(H23.2末時点)



## ■川内川「曾木の滝分水路」がグッドデザイン賞(平成24年10月1日)

特別賞(グッドデザイン・サステナブルデザイン賞(経済産業大臣賞))を受賞(平成24年11月25日)

位置図



曾木の滝分水路

### 🔗グッドデザイン賞・特別賞とは

- 1957年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組み((財)日本デザイン振興会主催)
- デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として、国内外の多くの企業やデザイナーが参加。
- 受賞のシンボルである「Gマーク」は、よいデザインを示すシンボルとして広く親しまれている。
- グッドデザイン・サステナブルデザイン賞(経済産業大臣賞)は、2012年度に選ばれたすべてのグッドデザイン賞受賞対象の中で、持続可能な社会の実現を目指している特に優れたデザインに贈られる特別賞。

### 受賞対象の概要

受賞対象: 曾木の滝分水路(鹿児島県伊佐市)  
(延長約400m、平均河床幅約30m)  
事業主体名: 川内川河川事務所  
分類: 都市づくり、地域づくり、コミュニティづくり  
受賞企業: 熊本大学  
プロデューサー: 国土交通省  
ディレクター: 島谷幸宏教授(九州大学大学院)  
小林一郎教授(熊本大学大学院)  
星野裕司准教授(熊本大学大学院)



### 曾木の滝分水路の計画検討(川内川激特事業: H18~H23)

曾木の滝は、美しい自然と雄大な景観を残している景勝地です。そのすぐそばに分水路を造る場合、いかにも人工的な見た目の水路にしてしまうと、曾木の滝周辺の自然豊かな景観を損ねてしまいます。そこで、曾木の滝分水路の計画検討にあたっては、九州大学や熊本大学、伊佐市、鹿児島県、地元観光協会、地域住民代表、川内川河川事務所による「曾木の滝分水路景観検討委員会」が設置され、周辺と調和した自然な景観づくりと、地域振興にも活用できる観光資源づくりを目指し、検討が行われました。検討会では、1/1000模型等さまざまな方法によって、洪水を減らす効果と自然な景観づくりの両立を検証しました。

こうした産官学民の連携による取り組みにより、曾木の滝分水路は、あたかも何千年も前からそこに存在したかのような景観となることができました。完成後は、地元住民やNPOにより、ウォーキング大会等のイベントが開催されるなど、地域振興にも貢献しています。グッドデザイン賞受賞にあたっては、こうした一連の経緯も高く評価されました。



曾木の滝分水路景観検討委員会

### 審査委員の評価

- 最大の特徴は自然景観保全のために地形改変を最小限に抑えつつ治水機能を満足させた事。そのためこの地の特徴である岩盤を上手く生かした事である。
- 河川断面を決定するために入念な事前検討を行い、岩盤を粉碎するダイナマイトの位置を細かく計算するなど、工学的、技術的解決により、今までにない自然な河川空間を作り上げた。
- その結果、災害復旧にとどまらず近接する観光地「曾木の滝」と連動し、アメニティの確保といった新たな価値を地域に創出した事は土木的にも画期的な事である。

『曾木の滝分水路(川内川激特事業)』が、  
**2012年グッドデザイン・ベスト100を受賞**

(平成24年10月1日)

**2012年グッドデザイン・サステナブルデザイン賞を受賞**

(平成24年11月25日)



写真は平成24年7月に開催された「曾木はっけんウォーキング」の様子です  
(分水路下流より上流を臨む)  
観光資源としての利活用へ向けた取組も、着々と動き出しています。